

令和7年度 下福島中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

<国語>

平均正答率で全国平均を3.7ポイント上回り、無回答率も全国平均よりも1.9ポイント低かった。内容的にも、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のすべてにおいて全国平均を上回っている。

<数学>

平均正答率で全国平均を2.7ポイント上回り、無回答率も全国平均よりも1.9ポイント低かった。領域別に見ても、「数と式」、「図形」、「関数」、「データ応用」のすべてにおいて全国平均を上回っている。

<理科>

今年度初めて学習者用端末を用いたオンライン方式による調査を行ったが、大きな混乱等なく、無事に実施することができた。平均IRTスコアにおいて、全国平均を51ポイント上回った。領域別に見ても、「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」すべてにおいて大部分の設問の平均正答率で全国平均を上回った。

<生徒質問紙>

全国平均と比較しても、朝食を食べている割合や規則正しい生活を送っている割合は高い。また家庭でしっかり学習に取り組んでいる様子も見受けられる。一方で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問に対する回答など、課題も見られる。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

5教科すべてにおいて大阪府平均・大阪市平均を大きく上回っている。特に理科では11ポイント以上、英語では12ポイント以上と大幅に上回る結果となった。また、無回答率でも5教科すべてで大阪府平均・大阪市平均と比べて低かった。日頃の学習の成果がしっかり発揮されていると考えられる。

○大阪市英語力調査(GTEC)

「読むこと」「聞くこと」「書くこと」「話すこと」の4技能のすべてにおいて大阪市平均を上回った。CEFR A1レベル相当以上の3年生の割合は73.5%であった。

○中学生チャレンジテスト(2年生・1年生)・中学生チャレンジテストplus(1年生)

チャレンジテストにおいては、1・2年生ともにすべての教科で大阪府平均・大阪市平均を大きく上回った。特に2年生の社会、1年生の数学では府・市平均を10ポイント以上上回った。また、無回答率も1・2年生ともにすべての教科において府平均・市平均に比べて低かった。1年生のチャレンジテストplusにおいても、社会で11ポイント以上、理科で16ポイント以上市平均を上回り、無回答率は市平均に比べて低かった。

○全国体力・運動能力、運動習慣調査

男子は握力、立ち幅とび、ハンドボール投げを除く5種目および体力合計点で全国平均を上回った。また、女子は握力を除く7種目および体力合計点で全国平均を上回った。

【今後に向けて】

授業でも家庭でもしっかりと学習に取り組めていることが成果につながっている。今後もICT機器やグループ活動等を効果的に活用し、生徒が興味関心を持って学習に取り組めるようにする。また、保健体育の授業を中心に取り組んでいる体力向上についても、「保健体育の授業は楽しいですか」の項目に肯定的に回答する生徒が男子で95.4%(全国平均93.2%)、女子で89.6%(全国平均84.2%)と高い割合であることから一定の成果が上がっていると考えられる。今後も日々の学校生活の中で、達成感を味わい、自己肯定感を高めることのできるような行事や取組を引き続き行っていきたい。